

お知らせ

2022年12月26日

株式会社コロプラ

(コード番号 3668 東証プライム市場)

【コロプラ】統合報告書「COLOPL Report 2022」を公開しました

株式会社コロプラ(代表取締役社長:宮本貴志、本社:東京都港区、以下「コロプラ」)は、コロプラグループの統合報告書「COLOPL Report 2022」をコーポレートサイト内に公開いたしました。

COLOPL Report 2022:

https://colopl.co.jp/redirect/pdf/?f=/assets/pdf/ir/library/reports/COLOPL_Report_2022.pdf



COLOPL Report 2022概要

コロプラでは、ステークホルダーの皆さまに、コロプラグループの企業価値向上に向けた取り組みについてより理解を深めていただくことを目的に、業績などの財務情報だけでなく、コロプラのフィロソフィーや経営方針、成長戦略、サステナビリティへの取り組みなどの非財務情報をまとめた統合報告書「COLOPL Report」を発行しています。

今回発行した「COLOPL Report 2022」では、コロプラグループの持続的な成長に向けた戦略をはじめ、新体制1年目の振り返りと今後の方針に関する経営陣のインタビューや対談、サステナブルな社会の実現に向けて新たに特定したマテリアリティ(重要課題)とその取り組みについて詳しく掲載しています。

COLOPL Report 2022の見どころ

■CEOが語る就任1年の振り返りと今後のコロプラ

新社長に就任してから1年間の振り返り、新作タイトルへの想いや持続的な成長に向けた今後の経営方針について社長の宮本が自ら発信しています。



CEO Message

**クリエイティブ体制を強化し、
独自の世界観を持った
魅力あるコンテンツを世界へ配信
国内外を問わず
有望な企業への投資は積極的に**

新経営体制となって1年

私が株式会社コロプラの代表取締役社長に就任して1年が過ぎました。この間、新型コロナウイルス感染症は相変わらず拡大と収束を繰り返し、2月に起こったロシアとウクライナの紛争はまだまだ国際社会に大きな衝撃を与え続けています。

そういった状況のなか、社会情勢に影響されにくいといわれるエンターテインメント業界ではありますが、中国勢の攻勢がさらに強まったこともあり、弊社を含む日本のゲーム業界（おもにスマートフォンゲーム）は停滞を余儀なくされ、コロプラにとっては、大変な1年だったと感じています。

ただ、一方でこの1年は、私にとってはチャレンジングな1年でもありました。新たなステージに立ったコロプラを、いかにコロプラらしさを失わずに前進させていくか？この1年は、考え、決断し、実行することの繰り返しでしたが、それは来るべき“巻き返し”のときに向けた助走期間であり、パワーチャージ

■チーフクリエイターが語る新しいゲーム開発体制

チーフクリエイターとして新規事業と新作ゲームの開発に注力する馬場が、エンターテインメント事業を管掌する坂本との対談を通じて、新しいゲーム開発体制やブロックチェーンやNFTなど次世代技術を活用した新規事業、今後の展望について語っています。

価値創造の源泉となる開発体制をさらに強化し新作タイトルの開発に挑む

昨年12月に新体制となり、約1年が過ぎました。ご自身はもちろん、社内のスタッフや開発メンバーの皆さんには、どのような変化があったと感じていらっしゃいますか？

■ 馬場 当社グループの経営に関することは社長の宮本に任せ、この1年、私はチーフクリエイターとして、おもに新作ゲームの開発に携わってきました。これまで社長とクリエイターという2つの役割を担ってきたことを考えれば、時間的な余裕もでき、

クリエイターとしていろいろなことを考える時間が増えました。その意味では、新体制への移行はよかったと考えています。ただ、1年という短い時間なので、私自身が手応えを感じる成果を得るには、もう少し時間が必要だと感じています。

■ 坂本 馬場がチーフクリエイターに就任することで、開発メンバーの間では良い意味で緊張感が強くなったように感じます。馬場は昔からクリエイティビティを重視するタイプなので、その人間がクリエイターのトップに立ったということで、メンバーからも以前にもまして品質の良いものが上がってくるようになりました。

また、2022年9月にはリードクリエイターという制度を新設し、馬場が4人のリードクリエイターを任命し、馬場とともに新作タイトルの開発に取り組む体制としました。今は新作タイトルの開発難易度が上がってきていますから、より組織的にクリエイティビティの高い新作タイトルを開発する体制を整えることが目的です。さらに、新体制に移行したことで、これまで以上に近くで馬場の仕事ぶりや考え方に接することができるようになり、私自身もクリエイターとして刺激を受けるようになりました。



**代表取締役会長
チーフクリエイター
馬場 功淳**

**取締役
エンターテインメント本部長
坂本 佑**

■社外取締役が見るコロプラ

国内外の大手企業で取締役を務めるなど豊富な経営・マーケティング経験を持ち、昨年社外取締役に就任したハロルド・ジョージ・メイ氏が、コロプラの6つの強みについてグローバルな視点で語っています。



特集2 社外取締役 ハロルド・ジョージ・メイ インタビュー

ニュートラルな姿勢とSDGsへの貢献

ニュートラルな姿勢とCX重視のモノづくりがコロプラの強みであり、キーポイント

ニュートラルな会社の姿勢に心を引かれ社外取締役に

私は約1年前、ある会社の紹介でコロプラの社外取締役になりました。しかし、このお話を聞いたとき、私は正直、とても驚きました。というのも、創業者がトップにいる会社のほとんどは、社外取締役とはいえず、それまでにその会社と何らかの関係がある人間を選ぶ傾向にあるからです。でも、私はコロプラとは縁もゆかりもありませんでした。私もコロプラの関係者を知りませんでしたし、コロプラの方も私のことを知りませんでした。そういった状況でオファーをいただきました。私は、驚いたと同時に「なんてニュートラルな会社なんだ」と思いました。そして、このニュートラルさに心を引かれ、私はコロプラの社外取締役になることを決めたのです。

実力があれば年齢も性別も経験も関係なし この姿勢は創業当初から変わらない

あれから約1年、コロプラの社外取締役になった今も、この会社に対する印象は、1年前とほとんど変わっていません。会社と

しての姿勢が素晴らしいし、哲学が特別。一人のクリエイター、一人の権力者がコロプラのすべてを握っているわけではなく、いい意味で、さまざまな人が活躍の場を与えられています。発想や実力さえあれば、若い人も年配の人も、経験を積み重ねてきた人も経験の浅い人も立場はイーブン。創業者がトップにいる企業は創業者の色が濃く出ることが多いのですが、コロプラにはそれがほとんどないということからも、ニュートラルな会社の姿勢が見て取れます。

そしてそれは、取締役会でも同じです。とくに私は社外取締役なので、異なる経験や見解、モノの見方が求められていると思っていますし、客観的な目線、感情を抜きにした、いわゆる株主側に立った意見を言う必要があるもので、できるだけニュートラルな目でコロプラを見るようにしています。

コロプラの場合、出発点からニュートラルであったというのが、私は非常に素晴らしいと思っています。

世界で活躍する可能性を秘めた才能に投資 若きクリエイターを支える「クマ財団」

コロプラのニュートラルな姿勢を表すもうひとつの組織が、

■コロプラが取り組むべきマテリアリティ

サステナブルな社会の実現するために、コロプラが取り組むべきマテリアリティを「社会・ステークホルダーからの期待」と「コロプラの発展に必要な3つの要素(人材・テクノロジー・事業環境)」の両軸から特定し、マテリアリティごとの具体的な取り組みについて掲載しています。

コロプラのサステナビリティ

当社は、「"Entertainment in Real Life"エンターテインメントで日常をより楽しく、より素晴らしい」というMissionのもと、エンターテインメントを通じて社会課題の解決を図り、グループ全体でサステナブルな社会の実現に貢献してまいります。

マテリアリティ

サステナブルな社会の実現に向け、当社が取り組むべき重要課題を「社会・ステークホルダーからの期待」と「コロプラの発展に必要な3つの要素(人材・テクノロジー・事業環境)」の両軸から特定しました。事業活動を通じて、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

	マテリアリティ	対応するSDGs
E 環境	● 事業推進と環境保全の両立	13 気候変動
	● 安心して働ける環境づくり	8 持続可能な消費
S 社会	● ダイバーシティの推進	5 性別平等
	● 健康経営の推進	3 健全な生活
	● 次世代の育成	4 質の高い教育
G コーポレートガバナンス	● サステナビリティを推進するガバナンス	16 公正な裁判



コロプラでは、今後も統合報告書、コーポレートサイト、公式Twitter等を通じて、財務情報だけでなく、非財務情報も含めた企業情報を積極的に発信するとともに、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションの充実に努めてまいります。

【株式会社コロプラ 会社概要】

社名 : 株式会社コロプラ <https://colopl.co.jp>

所在地 : 東京都港区赤坂9-7-2 ミッドタウン・イースト5F・6F

設立 : 2008年10月1日

代表者 : 代表取締役社長 宮本貴志

事業内容 : スマートフォンアプリを中心とした国内・海外向けモバイルゲームサービスの提供

VR(仮想現実)デバイス向けサービスの提供

国内外の未上場企業への投資およびファンド運用

公式Twitter: https://twitter.com/colopl_pr

公式Facebook: <https://www.facebook.com/coloplinc/>

【本リリースに関するお問い合わせ】

株式会社コロプラ 広報グループ

<https://colopl.co.jp/contact/pr/>

※コロプラおよびコロプラロゴは、株式会社コロプラの登録商標です。

※その他すべての商標は、各々の所有者の商標または登録商標です。